

滋賀県立農業大学校シラバス 501

講座名	施設園芸総論	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 花き栽培に関する基礎（種類と分類、生理生態、開花調節技術）
2. 施設野菜栽培の利点、栽培管理上の特徴・注意点

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	花きの種類・品種と名前（自然分類、園芸的分類、品種と品種の分類） 花きの成長・開花と環境（花きの一生と成長・開花、開花調節の技術）
第2回（4時間）	花きの繁殖方法（種子繁殖、栄養繁殖の方法） 花きの品質と品質保持（切り花、鉢ものの品質と品質保持技術）
第3回（4時間）	施設野菜栽培の目的と利点、施設の種類と装備、 施設装備と野菜経営、施設の土壌管理、土耕と養液栽培
第4回（4時間）	施設における栽培環境とその特徴 温度・湿度・CO2管理の考え方、積算温度

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農文協 草花栽培の基礎
- 自作プリント（ノート形式のプリント）

到達目標

- 花きの種類と分類方法を理解できる
- 草花きの開花特性に応じた開花調節技術を理解できる。
- 花きの品質評価の方法と品質保持技術を理解できる。
- 施設で野菜栽培を行うメリット、デメリットをふまえ、施設栽培の目的を理解する。
- 積算温度に基づいて野菜の生育を予測できることを理解する。
- 施設内における栽培環境の特徴をつかみ、温度管理等の感覚が身に着く。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 502

講座名	バラ栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
1. バラの生産動向 2. バラの栽培基礎・品種、経営、仕立て方法とその特徴、施肥法、病害虫防除

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	講義：① バラの原産地、属科および系譜 ② バラの生理生態と生育環境 ③ 全国および滋賀県のバラ栽培の歴史と現状 ④ バラ経営の特徴
第２回（４時間）	見学：バラ専作農家の見学
第３回（４時間）	講義：① バラの生育特性と経営への導入 ② バラの品種と作型 ③ バラの栽培管理技術
第４回（４時間）	講義：バラの病害虫と生理障害

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
○ 新版『草花栽培の基礎』（農文協） ○ 決定版『美しく咲かせるバラ栽培の教科書』（西東社） ○ 自作資料（バラの原産地・属科・系譜、バラ栽培の歴史と現状、バラ経営の特徴、生育特性と経営への導入、品種と作型、栽培管理技術、病害虫と生理障害について）

到達目標
バラの生理生態や栽培品種の系譜、営利栽培の歴史と現状に関する知識を身につけるとともに、バラ栽培に関する基礎的な技術を理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○ 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 503

講座名	カーネーション栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. カーネーションの栽培基礎、品種、経営、流通
2. カーネーションの病虫害防除
3. カーネーションの生産動向

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	講義：カーネーションの生産動向と流通について
第2回（4時間）	講義：カーネーションの栽培基礎・病虫害防除、 農大ほ場での現地講義
第3回（4時間）	見学：県内カーネーション生産者の視察研修
第4回（4時間）	講義：見学内容のまとめ、カーネーション経営について

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

農業技術体系などから抜粋や試験研究報告、経営ハンドブックなどを参考にして講義資料とする。

到達目標

1. カーネーションの性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。
2. カーネーションの流通や生産状況についての知識が身についている。
3. 視察研修において人の話を聞き、まとめる能力を身に着ける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 504

講座名	キク栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年	2年	就農	
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

キクの生産及び流通動向、生理生態的特性、栽培管理技術などについて学習する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	・キクの原産地・栽培史、流通面における動向 ・キクの生理生態的特性、分類と開花習性
第2回（4時間）	・キク栽培の要点（土壌条件、育苗、温度管理、開花調整、植物生長調整剤利用、親株管理）
第3回（4時間）	・輪ギク生産者ほ場視察
第4回（4時間）	・キクの病虫害対策、まとめ

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 講師作成資料
- 「草花栽培の基礎」農文協
- 「農業技術体系花卉編」農文協
- 「経営ハンドブック」滋賀県

到達目標

- キクの生産及び流通についての基礎的な知識が身についている。
- キクの基本的な生理生態および栽培管理方法について理解できている。
- キクの産地形成や経営について基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト
- 出欠状況
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 505

講座名	鉢花・花苗栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	---------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態	☒ 講義 ☒ 演習 実験 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 鉢花・花苗の生産動向（生産の歴史と現状）と現地視察
2. 鉢花の基礎知識：品目、経営、用土、栄養生理、施肥
3. 花苗の基礎知識：各品目の栽培技術

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	演習：鉢花・花苗の流通について分析
第2回(4時間)	演習：鉢花・花苗栽培の基本についてレポート作成と発表
第3回(4時間)	見学：県内鉢花生産者の視察研修、豊郷町内を予定
第4回(4時間)	講義：農大ほ場での現地講義

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農業技術体系（農文協）
- 経営ハンドブック（滋賀県）
- 市場年報（大阪鶴見花き地方卸売市場発行）
- 夏庭園芸草花の病気と害虫（米山伸吾・木村裕、農文協）

到達目標

1. 講義内で与えたテーマについて、正誤に関わらず分析して発表させる。
2. 市場等の鉢花・花苗の出荷調査データを分析する能力、まとめる能力を身に付けさせる。
3. 個々の発表の機会を与えることにより、プレゼンテーション能力を向上させる。
4. 視察研修では人の話を聞き、まとめる能力を身に付ける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- ☐出欠状況 ☐授業態度 ☐提出物の有無と内容
- ☐記述テスト

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 506

講座名	草花栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 1・2年草、宿根草の定義と分類
2. 播種方法
3. 主要品目の生理生態と栽培技術（アスター、リンドウ、スターチス、ストック、ユーストマ等）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	講義：草花類の生理生態と栽培方法
第2回（4時間）	講義：アスターおよびリンドウの生理生態と栽培方法
第3回（4時間）	講義：スターチス、ストックおよびユーストマの生理生態と栽培方法
第4回（4時間）	見学：県内の草花栽培圃場

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農文協 草花栽培の基礎
- 自作プリント（ノート形式のプリント）

到達目標

- 主な草花の特性と栽培方法についての知識を身につけている。
- 草花栽培の特徴について理解できている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 507

講座名	洋ラン・観葉植物栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	------------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 洋ラン・観葉植物の生産動向（生産の歴史と現状）、視察
2. 洋ランの基礎知識：品目、経営、各品目の栽培技術
3. 観葉植物の基礎知識：品目、経営、各品目の栽培技術

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	洋ランの概要と栽培技術の基礎知識
第2回（4時間）	観葉植物の概要と栽培技術の基礎知識
第3回（4時間）	観葉植物栽培の現地見学（東近江市今崎町）
第4回（4時間）	復習、試験対策
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○自作資料（洋ラン・観葉植物の概要と栽培技術、経営知識について）
参考：草花栽培の基礎（農学基礎セミナー）、農業技術体系花卉編12

到達目標

- 洋ラン、観葉植物の性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。
- 洋ラン、観葉植物の栽培についての基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 508

講座名	土地利用型園芸Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
・水田作野菜の栽培・作付体系（土地利用型作物と組み合わせた土地利用体系） ・水田作露地野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 ・排水対策の重要性とその手法 ・キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、タマネギ、白ネギ、小菊に関する栽培・経営各論

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	（講義）水田で栽培できる野菜の種類、水田での栽培における留意点、露地水田野菜を導入する農業経営について
第２回（４時間）	（講義）排水対策、作付体系（土地利用体系、ほ場のローテーション）加工・業務用途向け栽培の特徴について
第３回（４時間）	（講義）各品目の花芽分化特性や育苗技術について、キャベツ、ブロッコリー・ハクサイの栽培について
第４回（４時間）	（講義）タマネギ、白ネギ、小菊の栽培について （見学）土地利用型大規模経営体における収穫機を用いたキャベツ収穫作業（講義時間が確保でき、見学先の許可が得られた場合に実施）

使用教科書（テキスト）
新野菜づくりの実際（葉菜Ⅰ、根茎菜Ⅱ） 自作資料および農水省HP、農畜産業振興機構HP、農業機械メーカーHPを使用

到達目標
土地利用型経営に水田野菜を導入する意味を考える。 消費者・流通・生産者それぞれの立場から露地水田野菜各品目のイメージをとらえ、経営形態や経営戦略を考える。 家計消費向け栽培と加工・業務用向け栽培の違いを理解する。 各品目の生理生態に基づき、具体的な栽培方法を理解する。 排水対策の必要性を理解し、排水対策技術の基本を身に着ける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 509

講座名	園芸用施設	担当	大学教員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年	2年	就農	
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 園芸用施設の種類と構造
 - 施設園芸の特徴
 - 温室の種類と構造
 - 被覆資材、保温資材の種類と特性
- 温室の環境と制御
 - 温室の光環境と制御
 - 温室の温度環境と制御
 - 温室の湿度環境と制御
 - 温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御
 - 複合環境制御
 - 養液栽培の種類と特徴

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	施設園芸の特徴，日本の施設園芸の状況 温室、被覆資材の種類と構造
第2回（4時間）	温室の光環境と制御，温室の温度環境と制御
第3回（4時間）	温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御
第4回（4時間）	換気の種類と特徴，複合環境制御、養液栽培の種類と特徴
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
講義中にプリント資料を適宜配布	

到達目標

- 園芸施設の種類と特徴を理解する。
- 温室内の環境の特徴を理解する。
- 温室内環境の制御方法を理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 講義内で行う確認小テスト（13回）
- 期末テスト

評価基準

講義内で行う確認小テスト（13回，合計50点）と期末テスト（50点）で評価する（合計100点）。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 510

講座名	少量土壌培地耕システム	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	-------------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 ☒ 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
・ 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の内容（構造・システムの構成、栽培品目・コスト等）について理解する。 ・ 少量土壌培地耕 栽培ベンチ作成実習

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1回（4時間）	少量土壌培地耕システムの概要 栽培品目と普及状況（野菜）
第2回（4時間）	少量土壌培地耕システムの構成と機器 給液量、排液量の確認方法と重要性 システムに必要なポンプ能力の求め方
第3回（4時間）	少量土壌培地耕用ベンチの作成実習
第4回（4時間）	少量土壌培地耕システムの概要、栽培品目（花）
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○自作資料	
○農技センター資料	
○農業技術体系 等	

到達目標
☐ 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の構造、栽培品目および栽培方法について理解できる。 ☐ 少量土壌培地耕の利点、注意点を理解する。 ☐ 少量土壌培地耕システムを構成する各機器についての知識を習得する。 ☐ ベンチ組み立てに必要な、鉛直、水平、直角を意識した施工方法を身に付けることができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 511

講座名	植物保護	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年	☐ 2年	☐ 就農	
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

作物保護の重要性，病気の基礎知識，伝染方法，病害の原因と診断，病害の発生と環境条件，害虫の生態、防除対策、作物保護の手段

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	作物保護の重要性、植物病理学、応用昆虫学とは
第2回（4時間）	病害の伝染・病害の発生と環境条件病害の発生と環境条件・病害の診断作物保護の手段
第3回（4時間）	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性 主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第4回（4時間）	基本的な病虫害管理手法と総合的病虫害防除（IPM）の概念

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・自作資料（参考図書：「植物防疫講座（病害、害虫・有害動物編）」日本植物防疫協会、「現代応用昆虫学」朝倉書店 他）
- ・減農薬害虫防除DVD（農文協）

到達目標

- 作物保護の重要性について理解することができる
- 各種作物の病害、虫害の種類、生態に理解できる
- 病虫害の発生生態と環境条件，病虫害の診断について理解することができる
- 作物保護のさまざまな手段について理解することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は，講義を主とする科目であることから，評価は筆記試験やレポート等の成績のほか，出席日数，受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により，50点以上を合格とし，50点未満を不合格とする。なお，成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について，本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし，追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 512

講座名	花き経営	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 需要と生産
 - ① 国内および本県の需要動向と産地の動向
 - ② 花き生産の条件（自然的、経営的、生物的）
 - ③ 作物選択と栽培技術
2. 施設と費用
 - ① 施設と整備 ② 生産費 ③ 所要労力 ④ 収益性

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	産地の定義、国内の花き産地、作型と栽培型、露地、施設栽培の特徴について
第2回（4時間）	鮮度保持技術、流通形態・販売戦略、マーケティング、家族経営と企業経営、商品化率と秀品率について
第3回（4時間）	資産・負債・資本、収益・費用の種類、主要品目経営ハンドブック、経営計画実践
第4回（4時間）	先進経営体の視察（先進農家の栽培、経営方針を学ぶ）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料等

到達目標

花きを部門とした農業経営を営むにあたり、成功している農業経営とはどんな戦略をたてているかを知り、戦略の基礎となる考え方やツールの使い方を演習を通じて習得することを目指す。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 513

講座名	フラワーデザイン	担当	種苗店勤務	実務経験	有	無
-----	----------	----	-------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学 実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 1．トラディショナルなアレンジメント
- 2．季節のアレンジメント
- 3．アレンジメントの応用

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	トライアングュラーの制作
第2回（4時間）	パラレル・テーブルアレンジについて
第3回（4時間）	花束、シュトラウスの制作
第4回（4時間）	トライアングュラー、花束リースの制作
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

フラワーアレンジメントについての基本的な技術と知識を身につける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- フラワーアレンジメント実技テスト
○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 514

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	1年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 515

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	2年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに技術・経営について検討を加え、発表力の向上を図る。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 516

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	448時間（14単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～112回 （448時間）	1年次において、自身が定めた専攻で、農作物の基本技術を習得する。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 517

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	544時間（17単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～136回 （544時間）	2年次において、自らの経営計画に基づくプロジェクトの実施および取りまとめを行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 518

講座名	卒業論文	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	160時間（5単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① プロジェクトの内容の検討と課題の決定
② 課題解決し、プロジェクトとしてとりまとめる
③ 報告会での発表と論文として発刊する

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第1～40回 (160時間)	内容の検討、課題の決定、とりまとめと発表

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
なし

到達目標
課題解決に向けた取り組みを分かりやすく発表することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。